AGENTTRACE BEST PRACTICE

実ログを渡すな、「最小fixture」を渡せ

parser requestをAcceptance Criteriaとして捉え、
合成データ（Synthetic Fixture）で確実なパースを実現する

なぜ「実ログ」が問題なのか？

1. 非構造的なノイズ

OpenLawやHermesのログは複雑で、パースに不要な情報が多く含まれます。これらをそのまま扱うと、パーサーのロジックが不必要に肥大化します。

2. 保守性の低下

外部システムのログ形式が変わるたびにテストが壊れます。「期待する入力」が不明確なため、デバッグの難易度が飛躍的に上がります。

合成データ（Fixture）のメリット

期待値の明確化

Acceptance Criteriaをコードとして表現。パーサーが満たすべき要件をシンプルに定義できます。

高速なフィードバック

巨大なログファイルを読み込む必要がなく、ユニットテストがミリ秒単位で完了します。

安定したマッピング

Source FormatからEvent Recordへの変換だけに集中できるため、堅牢なコードになります。

Parser Guide 推奨ワークフロー

1. 定義

パースしたいSourceの最小要素を特定する

2. 作成

合成データによる「最小fixture」を記述する

3. 実装

fixtureを満たすようにパーサーを書く

4. 検証

Event Recordの構造が正しいかを確認する

HAPPY TRACING!

よりクリーンなAgentTraceの実装へ

Image Sources

https://fossa.com/_next/image/?url=%2FEPSS%20Blog%20Image.png&w=3840&q=75&dpl=dpl_6bj4QjAbnJBxyetLmnAVjnoM6VYM

Source: fossa.com